には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム ふるさと

日付

平成17年11月7日 特定非営利活動法人

┃評価機関名┃ ライフサポート

評価調査員

老人保健施設介護実務経験5年

居宅支援事業所介護支援専門員経験5年

評価調査員 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 | |
|------|--------------------------------------|----------------|-----|--|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | こしてめざしているものは何か | | |
| | 利用者一人ひとりの生活様式に合わせた生活。まさに其の通り昔ながらのスタ | | | |
| | イルで布団を敷き、朝には押入れにしまう事を自力でしている。自然に体が動く | | | |
| | のか。職員の見守りと声かけの良さが自立支援に繋がっている。 | | | |
| | 安心して生活出来る環境、一人ひとりの輝いていたときの品、思い出に残ってい | | | |
| | る品が部屋に飾られ、話題を広げている。 | | | |
| | じっくりと関わる事により得意分野の引き出しや、気持ちの動きを察知し家族と | | | |
| | の絆も深めている。これこそこのホームの求めている生きがい、生活スタイルで | | | |
| | はなかろうか。 | | | |
| | | | | |

生活空間づくり

| | 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|---|------------------------------------|---|-------|-----|
| | 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| | 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| | 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| | 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| | 記述項目 | - 並項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| | | 余程のことが無い限り、人の居るところで出来る事を楽しみながら過すような工夫がされている。お部屋に閉じこもり勝ちにならぬよう気配りがされている。 利用者との信頼関係作りがされており、落ち着ける気配りが良くされている。 | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 野の花を至る所に生けて、馴染みやすい環境作りをしている。 又廊下の一 | | | の一角 |
| | | に、アルバムコーナーが設けてあり、ソファーに座って見たり、自室に持って帰り、 | | |
| | | ここでの暮らしを思い出して楽しむ一時もある。家庭菜園がある周辺は足元がき | | |
| | | ちんと整備されているので安心。 | | |
| П | 1 | | | |

ケアサービス

| 番号 | | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |

外部評価の結果

護評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

玄関の戸は開放状態、何時でもどうぞお入り下さいと言わんばかり。玄関の横のコスモスがいっぱい咲 き、訪問者や利用者を和ませてくれる。丁度おやつ時間、食堂では思い思いのおしゃべり、職員は耳を傾 けている。賑やかでは無いが、自然の雰囲気の中で今年はもっと家族らしい間柄を感じた。

食事の下ごしらえは「お手伝いしましょう」とエプロン持参で手際よく野菜が刻まれていく。デザートには 利用者の家族より頂いた果物が並ぶ。「美味しいな」とマスカットをほうばる人、食卓に飾られている柿、梨 を見て、「私は柿が食べたいな」「じゃー皮をむいて下さいね」と包丁を手渡す。昔とった杵柄で上手にむい て皆に切り分けている。利用者の会話が飛び交う。ほっとする温かみを感じ自然に顔がほころぶ。家族が 訪問すると、他の利用者にも同じように対応して、この家の利用者一家族一職員との連携の深さを感じさせ てくれる。

103歳になられた男性はますます笑顔が良く、昨年より輝いた表情が印象的。もう一つの我が家を目指 し、日本古来の見慣れた佇まい、見慣れた屋敷周りの景色などを大切にして広々した自然な外部と生活空 間が心憎いほど見事な味を出しており、休みたい時、お茶にしたい時、畑の野菜が気になる時等一人ひと りが仲間と自由に行動し、その中でゆったり、ゆっくりとお互いをいたわり合って暮らしている利用者達を見 ていると、こんなグループホームが各地に広がることを期待したい。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

利用者の今出来る楽しみ、職員、管理者の構想の中にある思いを今一歩踏み出して、新たな喜びを広 げて行く事によりホームの活性化が図れるのではなかろうか。

その人、その人に合った機能訓練をされているが、楽しみの中で行えるプログラムがあっても良いので はなかろうか。加齢による低下を少しでも遅らせる者、自主的にシルバーカーで歩かれている方もいらっ しゃったし、車椅子の方に足をつかって頂くよう声かけをする工夫はなされているのでしょうか?

毎日の暮らしの様子、身体状況、排泄、食事、水分量等きちんと記録出来ていますが、もう一歩すすん で、利用者の言葉、気持も記録に残して、又それを検討、活用して欲しい。

毎日の献立が大き〈ホワイトボードに書かれて、良〈理解できてうれしいが、写真も添えてあると、より一 層食事が楽しみになるのではないでしょうか。

!!! ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----------|------------------------------------|-------|-----|
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にした整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| ÷7`#15 D | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるもの | は何か | |

・人ひとりの力と経験の尊重やブライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 記述項目

利用者の生活歴を尊重し、毎日の暮らしの中に活かし、其の人の出来る力を発揮して貰うよう にしている。板書の上手な方には毎日、一日の献立を板書して貰っている。書いている時、他の 利用者は椅子に座ったり、立ったり、後ろから覗き込んだり、夫々のスタイルで見つめ、一緒に生 活する仲間であることが実感出来る。

まだしっかりしている利用者も多く、ブライバシーの保護は大切にして、気を配り言葉の掛け方 や言葉使い等にも配慮をしている

24時間365日の関わりの中で日常的にゆったり、ゆっくりの関わりをしながら利用者一人ひと りの痛みや苦悩を共有してあげ、安心して生活して貰えるよう職員が努力している様子が実感で

IV 運営体制

| | 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|--|----|---|-------------|-----|
| | 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| | 32 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| | 33 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| | 34 | 地域との連携と交流促進 | | |
| | 35 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| | | U 17-06-0-1-1-1 DIEUS BERNE-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1 | + 0 14 /7 / | |

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

ケアーカンファレンス、話し合いには殆んど全員参加して行われる。職員の意識の高さがそう させているのだと感じた。

管理者と職員共に利用者に常日頃からしっかり目を向けており、何事にも真剣に関わっている 事が、グループホームのサービスの質の向上に繋がっている。また予防と同時に現存している 能力の維持に積極的に取り組みがされている事が良く分かる。管理者の思いとして、積極的に 他のグループホームとの交流をしたり、地域へもっと出て利用者がもっと元気に過せるようにし たいということに更なる期待が膨らむ。